

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

放送業務委員会（第 43 回）議事概要（案）

日時：令和 3 年 12 月 24 日（金）10:00～12:00

場所：Web 会議(Webex)

出席者：

都竹主査（名城大学）、伊丹主査代理（東京理科大学）
 赤羽専門委員（NTT 未来ねっと研究所）、岩田専門委員（(株)テレビ東京）、
 浦野専門委員（日本テレビ放送網(株)）、岡村専門委員（(株)テレビ朝日）、
 児玉専門委員（(一社)電波産業会）、寺田専門委員（日本放送協会）、
 内藤専門委員（(株)KDDI 総合研究所）、西田専門委員（日本放送協会）、
 廣野専門委員（(株)フジテレビジョン）、深澤専門委員（(株)TBS テレビ）、
 藤井専門委員（日本放送協会）、三木専門委員（三菱電機(株)）、
 山影専門委員（東芝インフラシステムズ(株)）

説明員

大出氏（日本放送協会）、甲斐氏（日本テレビ放送網(株)）、熊丸氏（日本放送協会）、
 齋藤氏、（日本放送協会）、佐藤氏（日本放送協会）、保谷氏（(株)フジテレビジョン）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課

近藤課長、武馬技術企画官、高橋補佐、高橋係長、伊地知官

【配布資料一覧】

資料 放-43-1	放送業務委員会（第 42 回）議事概要（案）
資料 放-43-2	WP6A 会合報告書（案）
資料 放-43-3	WP6B 会合報告書（案）
資料 放-43-4	WP6C 会合報告書（案）
資料 放-43-5	TG6/1 会合報告書（案）
資料 放-43-6	SG6 会合報告書（案）
資料 放-43-7	今後の検討の方向性
資料 放-43-8	郵便投票の承認可否（案）
資料 放-43-9	今後の検討スケジュール（案）
資料 放-43-10 （参考資料）	国際電気通信連合（ITU）2023 年世界無線通信会議（WRC-23） の議題一覧（第 146 回情報通信審議会情報通信技術分科会資料 一部抜粋）
資料 放-43-11 （参考資料）	放送業務委員会構成員名簿

議事概要

1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

2. 前回議事概要の確認

都竹主査より、資料 放-43-1「放送業務委員会（第 42 回）議事概要（案）」に基づき、第 42 回放送業務委員会の議事概要が確認された。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省 HP に掲載することとなった。

3. ITU-R SG6 及び各 WP 会合の結果について

3.1. WP6A 会合の結果について

佐藤氏より、資料 放-43-2「WP6A 会合報告書（案）」及び資料 放-43-7「今後の検討の方向性」に基づき、WP6A 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

都 竹 主 査： 日本からの寄与文書は順調に審議されているか。

佐 藤 氏： レポート及び勧告に適切に反映され、順調に改訂作業が進んでいる。

都 竹 主 査： 今後の検討の方向性の 6A/241 Annex 18 の件名の勧告番号が BS. 2385 となっているが、BT. 2385 と修正していただきたい。

3.2. WP6B 会合の結果について

大出氏及び保谷氏より、資料 放-43-3「WP6B 会合報告書（案）」及び資料 放-43-7「今後の検討の方向性」に基づき、WP6B 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

廣野専門委員： SMT (Smart Media Transport)は他の標準化団体ではどの程度議論されているか。また、特徴があれば教えていただきたい。

保 谷 氏： 中国から初めて提案されたものだが、MPEG には部分的に提案されているとのこと。MMT や RUOTE/DASH と類似のものだが、イマーシブや IP とのハーモナイズが意図されている。今後、仕様が充実していくと思われる。

廣野専門委員： 放送と通信の連携は今後必要になり、ブラウザベースで再生するものは注目していくべきものであり、今後も注視していただきたい。

西田専門委員： 中国では既に SMT の Ver1.0 が作成されており、今後 Ver2.0、3.0 とアップデートする予定と聞いている。MMT がベースになっているような内容に見えるが、必ずしも MMT の標準化に寄与するものではなく、中国国内での実用化に向けて検討が進んでいると承知している。SMT が対応しようとしていることは、放送の高度化にとって必要なことが含まれているため、今後注視していく必要があると思われる。

児玉専門委員： 将来の放送のビジョンについて、今後日本としてどう寄与をしていくのか、現時点で何かあれば教えていただきたい。

保 谷 氏： EBUからベースとなる寄与文書が提出されており、ラポータグループでこれをブラッシュアップすることになっている。ラポータグループの作業スケジュールや作成する文書の骨子等が示されることになっているため、その動向を注視することになる。

児玉専門委員： EBU提案をベースに議論するとのことだが、全く異なるビジョンがあれば他国から提案されることになるのか。

西田専門委員： EBUの中のBTF（Broadcast Technology Future）というグループが作成したレポートがきっかけになり、ビジョンを作成することになった。日本からNHK放送技術研究所もBTFに参加しており、EBUのレポート作成に寄与している。NHK放送技術研究所としてもFuture VisionをWebサイトにて発表しており、その英語版の情報を提供した。今後、EBUのレポートに示されているものとは異なるビジョンの寄与もあるかもしれない。

3.3. WP6C 会合の結果について

大出氏及び甲斐氏より、資料 放-43-4「WP6C 会合報告書（案）」及び資料 放-43-7「今後の検討の方向性」に基づき、WP6C 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

都 竹 主 査： 報告書の 1.3 日本寄与文書の審議結果の「LFE チャンネルの課題に対する意見と提案」について、新勧告草案となっているが勧告改訂草案の間違いか。

大 出 氏： ご指摘のとおりであるため、修正する。

3.4. TG6/1 会合の結果について

齋藤氏により、資料 放-43-5「TG6/1 会合報告書（案）」に基づき、TG6/1 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

都 竹 主 査： アラブ3カ国と他国が対立している原因は何か。

齋 藤 氏： 第一地域においては、470-694MHz 帯は放送業務のみが一次業務として割り当てられており、大多数の国は引き続き放送で使用したいと考えているが、UAE を中心にアラブ3カ国はその帯域を IMT に利用したいと考えていることが対立の原因である。共用検討結果を含め様々な面で両者が対立しており、議題 1.5 に関する進捗が滞っている。

3.5. SG6 会合の結果について

熊丸氏より、資料 放-43-6「SG6 会合報告書（案）」に基づき、SG6 会合の結果について説明が行われた。西田専門委員から次のとおり所見が述べられた。

西田専門委員： 3回目のオンライン会合ということで、参加者が慣れてきていることもあり、各 WP から SG6 会合に上がる文書も多く、嬉しく思っている。将来の放送のビジョンや環境負荷低減という新しい課題も出てきている。次回会合は現地で開催する予定となっており、日本からの渡航は難しいと感じているが、状況を見極めて判断する必要があると思っている。

3月上旬には ITU-T の総会も現地で開催される予定であり、総会の方がより大勢集まる会議のため、その開催判断が先になされると思われる。

4. その他

4.1. 郵便投票の承認可否（案）について

事務局より、資料 放-43-8「郵便投票の承認可否（案）」に基づき、ITU から照会されている新勧告案 1 件、勧告改訂案 6 件について説明が行われ、意見等あれば 1 月 14 日（金）正午までにメールで連絡することとなった。

4.2. 今後の検討スケジュールについて

事務局より、資料 放-43-9「今後の検討スケジュール（案）」に基づき、今後のスケジュールについて説明が行われた。

以上